

発信月日	平成 23 年 12 月 16 日
タイトル	地域、学校の「らしさ」を描いて 厚木市立依知中の生徒が壁画を完成

厚木市依知地区で建設が進んでいるインターチェンジに作られたトンネル内に 16 日、厚木市立依知中学校（同市中依知 364、中野浩校長、生徒数 384 人）の生徒たちが描いた壁画が完成した。学校や地域をモチーフとした大きな作品に、生徒たちはペンキを手に取りながら熱心に取り組んでいた。

「仮称圏央厚木インター壁画プロジェクト」と題された企画は、工事を進める NEXCO 中日本と依知中学校が共同で計画。「せっかく学校の近くのできる形で形になるものを残したい」という学校の思いと「地域との交流を図りたい」という同社の思いが合致して実現した。壁画に絵を描くことは落書き防止としても効果が高いという。

絵が描かれた場所は依知中学校から 100 ㍍ほど北に建設中の「カルバートボックス」と呼ばれるコンクリートでできた小さなトンネル内。長さ 50 ㍍、高さ 2 ㍍の絵をトンネルの両側に描いた。絵は「依知地区の四季」「依知中学校の校歌」をテーマに全校生徒から募集。長さ 5 ㍍の絵をそれぞれ 10 枚ずつ並べたものだが、つなぎ目を工夫し 1 枚の絵のようになっている。「依知地区の四季」は季節の花や花火、雪だるまなどが描かれ、「依知中学校の校歌」には校歌の歌詞から連想するイメージを壁いっぱい描いた。ボランティアとして参加した 1・2 年生を中心に 12 月 11 日から下絵を描き始め、16 日に完成した。

プロジェクトに参加した 2 年生の天野真琴さんは「みんなで力を合わせて一つのものを作り上げることができた。ここを通る人には絵を見て厚木らしさ、依知らしさを感じてほしい」と笑顔で話していた。

【問い合わせ】 厚木市立依知中学校
電話 (046) 245-1167

